

盛岡ひがし支援学校

はじめに

新設校として今年度設置された本校は、各学部における日常の授業づくり、全校や学部等における行事等の検討と実施、校務部等における学校運営の検討と実施を行ってきた。

これらの取組の中では、校務において物事を決めていく際、「前任校ではこうだったから」ではなく、「やる必要があるのか」「どういう目的なのか」「どうあればよいのか」と考えていくことを大切にしてきた。

一方、昨年度6月には「岩手県教職員 働き方改革プラン」が示され、今年度は新しい学習指導要領の移行期間から今後順次に本実施となる。

これらのことを踏まえ、校内研究を行うこと自体から検討した。

1 本校の研究について

(1) 研究の目的

学校教育目標「児童生徒一人一人の可能性を伸ばし、心豊かで主体的に生きる人を育成する」を見据え、日常の授業づくり・改善及び児童生徒への指導の実践・改善により本校の目指す児童生徒像を追及していくこととした。

(2) 研究の内容

校内研究を進めるうえで、特に以下の4点を基本に据えることとした。

ア 「新学習指導要領」の基本的考え方（社会に開かれた教育課程の実現、育成を目指す資質・能力、主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた指導改善、各学校におけるカリキュラムマネジメントの確立 等）を見据え、移行期間に求められる取組を行う。

イ 岩手県教育委員会の今年度の「学校教育指導指針（特別支援学校）」（特別支援学校においては、幼児児童生徒一人一人のニーズに対応した教育を一層充実するとともに、卒業後及び将来の自立や社会参加に向けた主体的な取組ができるよう、様々な面から工夫し、継続した支援につなげていくこと 等）を踏まえる。

ウ 「学習指導要領解説」に示されてある知的障がいのある児童生徒への教育的な対応（1）～

（10）を基本としながら指導を行う。

エ 「各教科等を合わせた指導」を行うに当たっては、学習指導要領解説に示されてある指導形態ごとの考慮すべき事項に留意して実施する。

(3) 研究の方法

各学級、学年、グループ、学部の「授業づくり」及び「事例の検討」を必要に応じ、関わる教職員で行う。

(4) 今年度の実践

各学級では、日々の授業や指導の検討が必要な事例について、日常の話し合いの中で取組を進めた。

各学年では、日々の授業や必要な事例について、学年会や日々の話し合いの中で教科担当、担任、学年長より話題提供し取組を進めた。

作業グループ等では、日々の授業や必要な事例について、担当者、担任より話題提供し取組を進めた。

学部においては、全体にかかわる授業や全体で知っておきたい事例について、学部会を中心に必要な取組を進めた。

2 講演会

講演会は、来年度より実施する予定である。

3 研修会

(1) 新学習指導要領説明会（7月5日）

講師：梅野 佳和 エリアコーディネーター

(2) 上期コンプライアンス研修会（7月26日）

テーマ：盛岡ひがし支援学校生の3年後の姿
進行：才藤 史紀 副校長

(3) ICT研修会（7月26日）

講師：及川 勝利 教諭

4 刊行物

研究集録は刊行していません。